(平成21年12月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>12月期の野菜の入荷状況は、果菜類はトマトの入荷が多かったことから入荷増となり、土物類は品薄状態が続いているものの中央集散機能の発揮により前年並みとなったが、根菜類や葉菜類については天候不順の影響を受けて入荷減となった品目が多く、野菜全体の入荷量は前年同期を3%下回った。</p> <p>価格は、土物類が全国的な品薄状態から単価高となったが、根菜類、葉菜類、果菜類については、加工業務を中心に不況による需要の低迷から単価安となった品目が多く、野菜全体では前年同期を10%下回った。</p> <p>品目別には、長ダイコン、西洋ニンジン、ハクサイ、レタス、キュウリが入荷減の単価安、カブラ、トマトが入荷増の単価安となり、ハウレンソウは入荷減の単価高となった。また、キャベツ、ピーマンは入荷前年並みの単価安、ナスは入荷減の単価前年並みとなり、パレイショ、タマネギは入荷前年並みの単価高となった。</p> <p>根菜類は、入荷が7%減少し、価格は17%安となった。 葉菜類は、入荷が4%減少し、価格は19%安となった。 果菜類は、入荷が4%増加し、価格は15%安となった。 土物類は、入荷が3%減少し、価格は9%高となった。</p>
果 実	<p>12月期の果実の入荷状況は、カキ類が豊作傾向で入荷増となり、イチゴ類やメロン類は前年並みの入荷となったが、柑橘類は前月の降雨で商品化率が低下し、リンゴ類も小玉傾向のため入荷減となり、果実全体の入荷量は前年同期を4%下回った。</p> <p>価格は、リンゴ類が大幅な入荷減によって小玉傾向ながら前年並みとなったが、柑橘類やカキ類は小玉傾向によって、またイチゴ類やメロン類は不況による需要の低迷によって単価安となり、果実全体では前年同期を13%下回った。</p> <p>品目別には、ミカンが入荷減の単価安、ふじ、王林は入荷減の単価前年並みとなり、イチゴ、アールスは入荷前年並みの単価安となった。また、富有柿は入荷増の単価高となった。</p> <p>柑橘類は、入荷が3%減少し、価格は23%安となった。 リンゴ類は、入荷が15%減少し、価格は前年並みとなった。 カキ類は、入荷が12%増加し、価格は11%安となった。 イチゴ類は、入荷が前年並みで、価格は5%安となった。 メロン類は、入荷が前年並みで、価格は19%安となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】 長ダイコン</p>	<p>徳島県，長崎県を中心に，千葉県，和歌山県，神奈川県からの入荷。各産地とも低温で肥大が悪く，入荷量は前年同期を10%下回った。 価格は，加工業務を中心に不況による需要の低迷が続いており，入荷減ながら前年同期を25%下回る結果となった。</p>
<p>カブラ</p>	<p>京都府を中心に，滋賀県からの入荷。 両産地とも作柄は良く，入荷量は前年同期を3%上回った。 価格は，不況による漬物需要の低迷が続いており，前年同期を38%下回った。</p>
<p>西洋ニンジン</p>	<p>長崎県を中心に，愛知県，鳥取県，千葉県，滋賀県からの入荷。各産地とも豊作傾向だったものの，単価安による出荷調整があり，入荷量は前年同期を10%下回った。 価格は，不況による需要の低迷から前年同期を21%下回った。</p>
<p>【葉菜類】 ハクサイ</p>	<p>茨城県を中心に，滋賀県，岡山県，鹿児島県，兵庫県からの入荷。各産地とも前月からの天候不順で作柄が悪く，入荷量は前年同期を3%下回った。 価格は，加工業務を中心に不況による需要の低迷が続いており，入荷減ながら前年同期を35%下回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>愛知県を中心に，滋賀県，茨城県，兵庫県，大阪府からの入荷。各産地とも収穫期の降雨によって一部作業遅れがあったものの，作柄は良く入荷量は前年並みとなった。 価格は，不況による需要の低迷に加え，前年が高値推移したこともあり，前年同期を51%下回る結果となった。</p>
<p>ハウレンソウ</p>	<p>京都府を中心に，徳島県，群馬県，熊本県，長崎県からの入荷。主力の京都府では前進出荷で切り上がり及早まったことに加え，後続の徳島県では播種期の豪雨で作柄が悪く，当月の入荷量は前年同期を29%下回った。 価格は，入荷減により前年同期を13%上回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>兵庫県を中心に，長崎県，徳島県，愛媛県，岡山県からの入荷。各産地とも前月の多雨によって作柄が悪化し，入荷量は前年同期を8%下回った。 価格は，加工業務を中心に不況による需要の低迷が続いており，入荷減ながら前年同期を22%下回った。</p>

<p>【果菜類】 キュウリ</p>	<p>宮崎県を中心に、高知県、滋賀県、徳島県、長崎県からの入荷。 主力の宮崎県は天候に恵まれ順調な生育だったが、他の産地は曇天の影響で生育遅れが見られ、全体の入荷量は前年同期を5%下回った。 価格は、加工業務を中心に不況による需要の低迷が続いており、入荷減ながら前年同期を10%下回った。</p>
<p>ナス</p>	<p>高知県を中心に、岡山県、徳島県、京都府、熊本県からの入荷。 各産地とも曇天と夜間の冷え込みによって作柄は悪く、入荷量は前年同期を13%下回った。 価格は、入荷減ながら、加工業務を中心に不況による需要の低迷が続いており前年並みとなった。</p>
<p>トマト</p>	<p>熊本県を中心に、滋賀県、福岡県、京都府、宮崎県からの入荷。 主力の熊本県は天候に恵まれ前進出荷で入荷が集中し、全体の入荷量は前年同期を14%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を15%下回った。</p>
<p>ピーマン</p>	<p>宮崎県を中心に、高知県、茨城県、鹿児島県からの入荷。 主力の宮崎県は天候に恵まれ順調な生育であり、入荷量は前年並みとなった。 価格は、加工業務を中心に不況で需要が低迷し、前年同期を12%下回った。</p>
<p>【土物類】 バレイショ (メーク含む)</p>	<p>北海道を中心に、長崎県、熊本県からの入荷。 主力の北海道産は夏期の長雨等により品薄状態が続いているものの、中央集散機能の発揮により入荷量は前年並みとなった。 価格は、全国的な品薄状態が続いており、前年同期を35%上回った。</p>
<p>タマネギ</p>	<p>北海道を中心に、兵庫県、アメリカ、中国、長崎県からの入荷。 主力の北海道産は夏期の長雨等により品薄状態が続いているものの、輸入物の入荷増と中央集散機能の発揮により入荷量は前年並みとなった。 価格は、全国的な品薄状態が続いており、前年同期を39%上回った。</p>
<p>【その他野菜】 生シイタケ</p>	<p>徳島県を中心に、広島県、和歌山県、岡山県、北海道からの入荷。 各産地とも中旬の寒波以降は収量が減少したものの、北海道と和歌山県の生産面積が増えていることから、入荷量は前年並みとなった。 価格は、不況で需要が低迷し、前年同期を12%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
ミカン	<p>和歌山県を中心に、福岡県、大阪府、愛媛県からの入荷。 本年は表年で着果数は多かったものの、前月の降雨で商品化率が低下し、入荷量は前年同期を3%下回った。 価格は、市場在庫が多く、さらに単価の安い小玉傾向での入荷となったため、入荷減ながら前年同期を24%下回った。</p>
ふじ （サン含む）	<p>青森県を中心に、岩手県、秋田県、長野県、福島県からの入荷。 各産地とも小玉傾向での入荷となり、入荷量は前年同期を9%下回った。 価格は、単価の安い小玉傾向での入荷となったため、入荷減ながら前年並みとなった。</p>
王林	<p>青森県を中心に、岩手県、秋田県からの入荷。 各産地とも小玉傾向での入荷となり、入荷量は前年同期を10%下回った。 価格は、単価の安い小玉傾向での入荷となったため、入荷減ながら前年並みとなった。</p>
富有柿	<p>奈良県を中心に、京都府、福岡県、和歌山県、滋賀県からの入荷。 各産地とも豊作傾向で着果数は多く、入荷量は前年同期を21%上回った。 価格は、単価の高い冷蔵柿の割合が高く、入荷増ながら前年同期を8%上回った。</p>
イチゴ	<p>熊本県を中心に、福岡県、大分県、佐賀県、長崎県からの入荷。 各産地とも下旬は寒波の影響で入荷減となったものの、上中旬が潤沢な入荷状況であり、全体の入荷量は前年並みとなった。 価格は、不況による需要の低迷から前年同期を5%下回った。</p>
アールス	<p>熊本県を中心に、静岡県、高知県、宮崎県、長崎県からの入荷。 各産地とも順調な作柄であり、入荷量は前年並みとなった。 価格は、不況による需要の低迷から前年同期を20%下回った。</p>